

ちょっと工夫を してみませんか？

LD、ADHD、高機能自閉症等へのサポートマニュアル

軽度発達障害児のサポートマニュアルの作成と活用

文部科学省の実態調査の結果、小学校と中学校の通常の学級において6.3%程度の児童生徒が、学習面での困難（学習障害）や行動面での困難（ADHD、高機能自閉症等）な態様を示す実態があると報告がされました。

これは、通常の学級の指導において、40人中2～3人の割合で特別な教育的支援を必要とする子どもたちがいるということであり、個々の子どもの教育的ニーズに対応する必要性を示したものでもあります。

気になる子どものサインとして実態をまず把握し、アセスメントをする中で指導仮説を立て具体的に対応をしてみると、子どもの中には、軽度発達障害（LD・ADHD・高機能自閉症等）としての視点で対応をした方が、教育効果が上がり子どもたちも学習に打ち込める場合があります。そのような子どもへの対応のために、サポートマニュアルを作成しました。

サポートマニュアルは、まず担任が子どもたちのサインに気づき、適切な実態把握に基づきアセスメントをする中で指導仮説を立て、次に具体的な指導方法や手立てを考える内容となっています。そして、具体的な対応を考えるいくつかの手立てが事例として掲載され、指導に生かせるようになっています。講座で今後も活用すると共にホームページにも掲載をしますので、多くの先生方に検討をいただき、使いやすいものになればと考えています。

具体的内容と活用

このサポートマニュアルは、以下の内容で構成しました。子どもの課題に対して、どのように対応の手立てを見つけて実践に盛り込んでいくか。子どもを目の前にして、「とにかくやってみよう」とされたときに、参考になればと思います。

(1) 軽度発達障害について

LD、ADHD、高機能自閉症等への理解と対応について

(2) 演習のページ（※図1参照）

このページは、LD、ADHD、高機能自閉症など、通常の学級にいて担任の先生方が困難を感じる例をもとに、支援の手立てを考えていくワークとして設定しました。

実際には、クラスの中には様々な課題をもつ子どもたちがいます。演習として、典型的なタイプについてのシートを、12例載せています。担任だけでなく、校内の特別支援教育コーディネーターを中心とする校内委員会などでも、実際の支援の在り方を考えていく際に活用してください。

(3) 正しい理解のために～アセスメントの方法～（※図2参照）

- ・子どもの状況を把握する（情報収集とアセスメント）
- ・得られた情報を整理してまとめる。
- ・具体的な支援の方法・手立てを考える。
- ・一定期間の取組後、振り返って評価をする。（評価に基づき検証をしよう）

(4) 個別の指導計画

様々な情報を基にしたアセスメントに基づいて、個々の児童のニーズ（学習支援や援助の在り方）を把握できたら、それをもとに個別の指導計画を立て、指導していくことが大切です。

(5) LD等への支援体制（校内支援体制）

各学校で、校内支援体制を整備し校内委員会等で検討することが大切です。

